

じやっど新聞

No.53号

活動視察報告・総会ご案内

発行日：2008.3.28 *2009. 3. 28*
 発行人：小幡 順子
 発行所：じやっど事務局
 〒895-0054 鹿児島県薩摩川内市神田町
 11-20 若松記念病院内
 TEL/FAX 0996-27-0193
 mail jaddo@po2.synapse.ne.jp
<http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/>



絹織物の村にて。「小石を入れて、糸で縛って染めると
 このような絞り染めになります。布は町の市場で売ります」

53号ご挨拶「スタディツアー帰国報告会を終えて」 NPO 法人じやっど 理事 古田 宣稔

薩摩川内市および鹿児島島の学生に「じやっど」のラオス活動を通じ、途上国や国際協力に対する理解を深めてもらいたいと始めたスタディツアー派遣。昨年12月25日～31日のラオス訪問、そして3月1日の帰国報告会をもって全日程が終了しました。昨年8月からの準備期間を入れると半年掛りの事業。国内活動の柱として、また学校への啓発活動として大きな役割を持っています。

報告会は忙しい時期と重なりましたが、東京、福岡からの参加者や当日卒業式、明日が卒業式の学生もいましたし、昨年ツアーに参加した学生も会場に来てくれるなど、お互いの体験を再度共有しあう貴重な時間となりました。

参加者レポートは、それぞれの個性を反映して

バラエティ豊かでした。道路や小学校、子供たちに関する素朴な驚き、喜びに始まり、看護学生は病院について、ある人は食物アラカルト、またある人は日本との比較と、多種多様な内容は聞いていて新鮮で、我々が「普通」と思っていることにも、参加者は「数多くの何か」を感じたようです。

3月は別れがあり旅立ちの季節であると同時に、新しい出会いも待っています。「じやっど」の活動もまさしく「人との出会い」によって生まれ、続いてきました。ラオスのスタッフ、国内の会員そして新しい仲間。これからもラオスの学校保健を通して輪と和を広げ、スタディツアー参加者の若く新しい力が10年後の国際理解の一端を担ってくれることを信じています。

2008 じゃっどスタディツアー報告

2008年12月25日ー12月31日、13名にて現地の活動を視察してきました。
7日間を駆け足で振り返ります。

12月25日（木）福岡空港出発～台北～ベトナム・ホーチミン空港到着

夕刻のホーチミン市内は帰宅ラッシュに道路工事も重なり、大渋滞。
停車する車の列に、容赦なくバイクの大群がもぐり込んでいきます。
フォーでかんたんな夕食をとった後、ベトナム名物「水上人形劇」見学。

12月26日（金）午前中：ホーチミン市内観光

午後：ホーチミン～ブノンベン～ビエンチャン到着

市内のアメリカ領事館、大教会、郵便局など見学。ホーチミンを出発後
カンボジアのブノンベンにて乗り継ぎ、夕刻ビエンチャンに到着しました。
ベトナムと比べると交通量の少なさは一目瞭然。空港にてコンサップ・ソムチット
両医師の出迎えを受け、明日からの訪問について打ち合わせをしました。



●ベトナム・ホーチミンにて

12月27日（土）午前：サントン地区ファイトン・バンマイ小学校訪問

早朝7時、ホテルテイインを出発。サントン地区はビエンチャン市内から52キロの距離にある特別市地区のひとつ。事前に訪問しているコンサップ氏・ソムチット氏によると、サントン地区は市内からの道路事情が悪く、特別市の中で最も貧しい地区とのこと。2008年夏のメコン川の洪水直後の道路は、さらに酷かったそうです。



●ラオス特有の赤土の未舗装道路

今回の訪問時には、多少整備されていたようで「大きな穴が無くなった！
ずいぶんマシになった」それでも車の天井で頭を打つような道でした。
通り沿いの建物には、洪水時の水かさを示す泥のあとがくっきりと残り、
少なくとも1メートルほどは浸かった様子でした。そんな道を走ること2
時間、ようやくサントン地区ファイトン・バンマイ小学校に到着しました。
135名（在籍数）の生徒たちと村人たちも総出で私たちを出迎えます。
ツアー参加者全員で「机いす募金」の寄付者を記名し、写真を撮った後、
村長・校長からの感謝状贈呈、歓迎の儀式「バーシー」を受けました。



●訪問直後、緊張した面持ちで私たちを出迎える生徒たち



小幡理事長から
校長先生へ
文房具・スポーツ
用品を寄贈



地区教育長
より感謝状を
受け取る帖佐
事務局長

12月27日（土）午後：教師向け学校保健セミナー視察、絹織物の村を訪問

バーシーと昼食後、サントン地区の中心部にあるコクボン小学校で開かれた教師向け学校保健セミナーを視察。このセミナーには29の小学校が参加しました。コンサップ氏によるセミナーの後、ツアー参加者よりセミナー受講の小学校にスポーツ用品・衛生知識の紙芝居・衛生の歌（アナマイ・ソング）CDの贈呈を行いました。



●セミナー風景



●3点セットで1校ずつ寄贈



●空気入れ作業を頑張りました

12月28日（日）午前：ビエンチャン市内観光 お昼：マニパン医師宅訪問

そろそろラオスの雰囲気にも慣れてきた3日目。午前中に2つの寺院を見学し、タラサオ（市場）にて買い物。ビエンチャン市内を一望できる凱旋門にも登りました。その後、黄金に輝くお寺「タットルアン」を見学。お昼は、コンサップ氏の親戚であるマニパン医師宅にて行われた宗教儀式（お坊さんをお祈りしてもらおうもの）に参加させてもらい、昼食までご馳走になりました。



写真左
儀式の様子



写真右
ずらりと並んだ
ご馳走

12月28日（日）午後：セタティラート病院見学

今回のツアーには、学生枠にて看護学科の学生さんの参加がありました。本人達の強い希望もあり、コンサップ医師の娘であるナナ（医師）が、研修医として過ごしたセタティラート病院を案内してくれました。



●病院受付

ナースステーションには看護学生がいた



●廊下に並べられたベッド

デング熱流行時には患者でいっぱいになる



●日本語の5つのSが掲示されている

「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」

12月29日（月）午前：タディンデン小、ナテ小、ノンケン小訪問

到着以来、時折小雨もぱらつく薄曇りの天気が続いていたのですが、この日は朝から快晴！美しい青空が広がりました。「これだけ真っ青ってことは紫外線もすごいよ」とは小幡理事長の弁ですが、確かにその通り。日陰のない道路を延々と歩いて学校に通う子ども達もいます。せめて学校はしっかりとした建物を…と思います。



子ども達に
囲まれて
タディンデン小学校

左：ナテ小学校
校長先生と



右：パーシーに
参加 ノンケン小



12月29日（月）午後：NGOラオスの子ども ビエンチャン事務所訪問

NPO法人「ラオスの子ども」は、ラオスにて図書出版や図書室設置を中心に活動している団体です。現地の図書事情、活動の成果や難しさ、今後の目標など、現地代表のダラーさんが説明してくださいました。「五体不満足」など、ラオス語に訳された日本の本もあります。

●写真左手前がダラーさん。奥に見えるのは、棚のない教室の壁にかけて使う布製の本の収納袋です。現地の事情に合わせて、いろいろと工夫をしているとのことでした。



12月30日（火）午前：織物工房 午後：ビエンチャン～ハノイ

12月31日（水）ハノイ～台北～福岡空港にて解散

ラオスでの最終日、織物工房を見学。若い女性たちばかり20人ほどが細かい織りや糸巻きの作業を黙々とこなしていました。併設された店の商品は高品質で、海外からの仕立て客も多いそう。昼食はフォーを頂きラオスの名残を惜しみつつ、市内をあとにしました。ワットタイ空港にてコンサブ・ソムチット両氏に見送られ、ベトナム・ハノイへ。1泊後ハノイでの散策は早朝散歩のみ。いそいで空港へと向かい、台北経由で大晦日の福岡空港に降り立ちました。皆様、おつかれさまでした！



●織物工房では若い女性たちが細かい作業に励む

【学生枠・網屋志保さん（右）】



活動視察に参加して自分の目で感じたり、考えたりしたことをお伝えします。まず、小学校を訪問して、ある学校では屋根と机といすしかなく、トイレもありません。用を足す場所は学校裏の茂みです。衛生面には良くなくてデング熱や赤痢、コレラといった伝染病を引き起こします。ある程度設備の整った学校もありましたが、整備されていても習慣化されるには、まだまだのように感じられました。このように習慣化されるまでには、子どもたちへの公衆衛生の教育が必要です。そのために、現地の医師が学校の先生たちに教育して、そのことを次は子ども達に教育を行います。先生はみな大学卒ではなく、理解力などもそれぞれで普及させるには時間があると感じました。また、たばこの話になると、たばこで生計を立てている人もいて人々の生活に活かせるようにするにはなかなか難しいと感じました。しかし、このような活動により、教室に手洗いのポスターがはってあったり、手洗いの歌などがあり、少しずつ先生の教育により子ども達に浸透してきているところもあると思います。また子ども達が勉強をする場があるということは、保健活動に必要な読み書きやある程度の知識を持っていると早く浸透していき、衛生面の向上につながります。そのため、教育の充実は不可欠であります。また本を普及させる活動をしている NPO 法人（ラオスの子ども）を訪れる機会があり、ここでは他国の本をラオス語に訳したり、本を書く人の研修や本を管理する研修などの活動を行っています。このように本を子ども達が読む習慣を身につけることで、学習の発展、また本や紙芝居を通して手洗いなどの保健指導にも役立つと思います。病院を訪問したときに聞いたことですが、ラオスでは日本のような保険制度はなく、自払いだそうです。また薬を飲む習慣がなく漢方薬に頼っている地域も少なくないそうです。お金を持っている人はラオスではなくお隣の国タイの病院に行きます。このようにラオスでは、金銭的理由、距離的理由により、病院に行かなくてはならないのに病院に行けない人がまだまだたくさんいると考えられます。特に感染症や伝染病など予防できる病気が多く発症しているため、予防医療を行うことが大事であると考えます。最後に、視察に参加して、子ども達の笑顔を守っていけるように、ラオス以外でもアフリカやアジアなど世界各国で役立つ看護師・保健師になれるよう、これからの学生生活を過ごしていきたいと思えます。今後も多くのこのような国に行き、自分の目で見ていきたいと考えています。ありがとうございました。

【一般参加・濟藤美紀さん（写真中央）】

私たちの生活の中で「国際化」「ボランティア」という言葉が、当たり前のように使われるようになっていますが、いったいボランティアとは？援助とは？何だろう・・・と疑問に思っていました。現地じゃっどの活動を見て、ラオス人はそれどのように感じているのか、に触れることができ、疑問が少し解けてきた気がします。考え込めばきりがありませんが、「実際に見てみる！」って大事だなと思いました。今後、学校職員という立場の私ができることとして、少しでも子ども達に現状を伝える機会を作っていけたらと思います。みんな「何かをしたい！」という気持ちは持っていますが、どのように活動すればいいのか、(寄付などが)どのように使われているのかが見えにくいので一歩が踏み出せず、どこか遠くの話・・・となっているのかなと感じます。(自分もそうですが)少しでもきっかけ作りができればと思います。



【一般参加・松山容子さん（左）】



東京から参加の松山です。じゃっどツアーには13年前に参加して、今回2度目じゃっどのおつきあいは、帖佐先生が14年前、東京の何かの会合でツアー参加者募集をされていた時からです。13年間で首都ビエンチャンは田舎から地方都市に発展した感じでした。しかし、ちょっと郊外にいくと、まだまだのようです。だから、ラオスのよさは変わらず、じゃっどの存在価値もあるのではないかと思います。

【じゃっど事務局員・泊 亜希子】

(※個人の見解に基づく意見・考えであり、団体としてのじゃっどの意見・考えを表現するものではありません)

今回で2回目となった視察訪問。短い滞在ではあるが、ラオスの変化や支援の「奥」にあるものが少しだけ見えてきた。

ひとつは「支援」を定義する難しさについて。青年海外協力隊で柔道を教えているIさんの話。教室では、日本から送ってもらった柔道着をラオス人に配っている。それは習いに来ることを条件に配っているのだが、柔道着をもらった途端、全く来なくなる子どもも少なからずいるらしい。その柔道着は、中学校や高校の体育の授業用に生徒たちが購入し、不要になったものを柔道の関連団体が取りまとめ、ラオスに無償で送っているものだ。「日本人だって安くはないお金を払って買った柔道着を国際協力と思って寄贈している。また、柔道団体も支援のため無償で協力している。この柔道着にはそれだけの思いがあるということでは理解してよ」と、彼は教室に来なくなった生徒にきちんと伝えたそうだ。言いにくいことを双方のためと思って伝えるのは勇気のいることで、彼の態度には非常に感銘を受けた。

と同時に、違う角度からも見ることができる。(とにかく柔道着が欲しかった。習いに行く時間や金銭的な余裕は実はないのだけれども…)もしかすると、来なくなった生徒には色々な事情があるかもしれない。また「柔道」が、ラオス人にとっては、興味はあるし、習ってみたいけれども、「今すぐ役立つ」という種類のものではない可能性もある。「支援」はあくまで支援であり、私達がやりたいからやっていること。(協力隊活動は要請を受けての活動だが)それに対し、どこまで「見返り」=こちらの狙い通りの反応、手ごたえを求めてよいものか…。あなたはどのようにお考えになられるだろうか？

支援の現場ではそれぞれの活動に伴って、それに関係する人の数だけいろいろな感情や思考がある。まずは自分の感情・思考に従うのが一番大事ではないか。一人一人の肉体・精神活動が糸となり、そのうねりを束ねたものが「支援・国際協力」の総体。じゃっどの会員にも、じゃっど活動を通じ、その「1本の糸」であることを感じてもらえたらと思う。逆にいえば、そう感じて頂ける活動を、私たちはしていきたい。

もうひとつ、自分たち日本人に対して思うこと。私たちはラオスに飛行機に乗って訪問するのであり、決して「タイムマシン」に乗って行っているわけではない。つまりラオスは「昔の日本」とイコールではないということ。風景や経済の状態は確かに、かつての日本と重なるところもあるだろう。しかし、現在のグローバル世界では先進国のみならず、ラオスも他の途上国も例外なく相互に影響しあっている。有線電話を敷設する前に、携帯電話が爆発的に普及しているスキップ現象。自国通貨キップだけでなく、タイバーツや米ドルも柔軟に利用し、街角のフー(米麺)屋さんであっても、簡単な英語が通じる。「途上国」「小さく、貧しい国」そんなイメージだけでは語れない、ラオス人のしなやかな強さをまざまざとを感じる。物やサービスが充実していないことに関しても、良くも悪くも、どこかのんびりと構えているのか、「あったらうれしいけど、なきゃないでやっていく」…まさに「ボーペンニャン!」「なんとかなるさ!」な、泰然とした人々のあり方。なにかと「…であるべき」日本人も、少し取り入れてはどうだろう。

もちろん実際には、「ボーペンニャン」で済まされないことも多くある。中でも、教育と健康は世界中のどの地域の人々にも与えられるべき権利であり、じゃっど活動はまさにこの部分を担っているわけで、それだけに活動の重要性を痛切に感じる。

この教育と健康という「LIFE(いのち・暮らし・人生)のインフラ」さえしっかり底上げできれば…。それ以外の部分、究極的には人々の幸せはそれぞれでいいじゃないか、と訪問するたびに感じるのも、また事実である。

ボーダーレス化した世界での「支援」を考えると、必要なのは「タイムマシン」思考を捨て、新たな価値観に基づく視点を自分も持つこと—そう強く感じた今回の訪問であった。



ヴィエンチャン市内 早朝の托鉢



放課後 サントン地区の子ども



校長先生 じゃっどプレートの下でニコリ

【事務局たより】

新規会員・ご寄付 (2008年12月～2009年3月)

感謝の気持ちと共に、ご協力くださった皆様のお名前を記載させていただきます。(以下敬称略)

- 新規会員 福島由佳里、吉川美咲、(薩摩川内市) 網屋志保、(鹿児島市) 濟藤美紀 (出水郡) 楠生正信 (日置市)
- 平成20年度会費 福島由佳里、中野育子、神彰男、竹下陽子、山陸裕康、木原兼博、吉川美咲 (薩摩川内市) 濟藤美紀 (出水郡) 網屋志保、豊平修、豊平安子 (鹿児島市) 高坂紀子 (出水市)
- 平成21年度会費 神彰男、山本澄子、竹下陽子、湯ノ谷チエ子、愛甲勝 (薩摩川内市) 烏山信子 (千葉県) 馬場寛利 (鹿児島市) 飯尾茂樹 (いちき串木野市) 楠生正信 (日置市)
- 平成22年度会費 湯ノ谷チエ子 (薩摩川内市)、楠生正信 (日置市)
- 平成23、24、25年度会費 楠生正信 (日置市)
- 寄付金 上原鈴子、永田喜久恵、池田ユミ、神彰男 (薩摩川内市) 中村良成 (志布志市) 高坂紀子、中村睦子 (出水市)
- 机、いす募金
4口：菱刈昭郎、菱刈明子 (薩摩川内市)
2口：楠生正信 (日置市) 中島寿、永田喜久恵、神彰男、吉森健夫、吉森ムツ子 (薩摩川内市)
1口：飯尾茂樹 (いちき串木野市)
- 大口寄付 九州電力生活協同組合鹿児島支所 (鹿児島市) 西菌行博、下馬場勲、帖佐理子 (薩摩川内市)
- 委託販売 Cuir Hair 仮屋洋子
めん道案内「ギャラリー道楽」竹下美恵子
- 印刷協力 神崎候至 (株式会社アクティブ)
- 新聞発送協力 立島尚子 (ボランティア)

お詫び；机いす募金において、机への寄付者名記入に際し、一部の方に漢字の間違ひがありました。お詫び申し上げます。

【国内活動】

- 12月6日 薩摩川内市提案公募型補助金事業
プレゼンテーション (帖佐・泊)
- 12月7日 2008 じゃっどスタディツアー
オリエンテーション (理事3名)
- 12月25日 2008 じゃっどスタディツアー実施
～ (8日間・13名参加)
- 12月30日

2009年

- 1月23日 九州電力生活協同組合鹿児島支部より
じゃっどへ寄付金贈呈
同執行委員長 川俣広孝氏 事務局来訪
(小幡・帖佐・古田)
- 1月29日 JICA 鹿児島デスク 事務局来訪
離任・就任挨拶
- 1月31日 南日本新聞 薩摩川内総局にて
じゃっどスタディツアー学生枠参加学生
取材 (事務局 泊同行)
- 2月20日・21日 じゃっど活動写真パネル展@プラッセだいわ川内店 (20日：古田・村方・吉田・泊、
21日：宮脇・増岡・小幡・帖佐茉莉花、帖佐)
- 3月1日 2008 じゃっどスタディツアー帰国報告会
@薩摩川内市国際交流センター
- 3月3日～ じゃっど活動写真パネル展
3月19日 @宮崎銀行川内支店
- 3月11日～ じゃっど活動写真パネル展
@薩摩川内市国際交流センター内ロビー
- 3月14・15日 きやんせふるさとフェスタ バザー出店

■ 会費納入のお願い

各会員様の会費納入状況 (会費有効期限) は宛名シール内に記載してあります。どうぞご確認ください。
(今年度平成20年4月1日～平成21年3月31日)

※ 同封の振込用紙は平成21年度会費 (平成21年4月1日～平成22年3月31日) 納入等にご利用ください。

じゃっどの活動は皆様の会費に
支えられています。

机いす募金・寄付金、随時受け付け中です。

郵便局：02050-2-4746 口座名：JADDO

* じゃっどゆうちょ銀行口座への直接振込も

(ゆうちょ・市中銀行から) もできます。

【記号】17840 【番号】31817981

【なまえ】トクテイヒエイリカツドウホウジンジャッド

他金融機関からお振込の場合は、下記をご指定ください。

【店名】七八八 (漢数字) 【点番】788

【預金種目】普通預金 【口座番号】3181798

じゃっと INFORMATION

◆九州電力生活協同組合 鹿児島支所さまより、多額のご寄付を頂きました



■川俣広孝氏より小幡理事長へ



■上半期活動・視察の報告も併せて行いました

◆平成 21 年度「じゃっと定期総会」開催

5月16日（土）

午後3時—4時半

すこやかふれあいプラザ2階

（薩摩川内市東開町・健康保健センター

電話：0996-22-8811）

20年度活動・収支報告と21年度活動計画案・
収支予算案の審議を行います。

皆様のご参加、お待ちしております！

※ 正会員（議決権保有）の皆様

本レターに総会への出欠伺いのはがきを同封して
あります。出欠・委任状をご記入のうえ、5月上旬
までに必ずご返送くださいませ。

お手数ですが、よろしくお願い致します。

◆ラオス雑貨、入荷しました！

スタディツアーの合間をぬって
ラオスの雑貨を仕入れてきました。
ポーチやバッグなどの小物類
ラオス伝統の美しい絹織物が
たくさん揃っています。
売上はじゃっと活動への寄付に
なります。プレゼント等にもぜひ。



◎◎◎ 編集後記 ◎◎◎

パネル展の女の子がとても可愛かったですね。素朴な
感じとってもグー——！すみません、まったく関係
ないのですが「おくりびと」アカデミー外国映画賞受
賞・万歳（K.K.）

“タルトじゃっと”と言うお菓子が県内の国分とらやで販
売されているのにビックリ。さっそく帰国報告会で取り寄
せてみんなで食べました。美味しかったです！（M, M）

今回の訪問での個人的ハイライト。1. 託鉢（タクバツ）：朝6時に起きて
地元のおばさま方に混じり、お菓子を提供させていただきました。2. コ
オロギのフライ：参加者全員？で頂きました。時季によりセミのフライもあ
るそうです。3. 屋台のお菓子ロティ：熱くて甘くて絶品！でした♪（T）

次回じゃっと新聞は「総会のご報告」7月末発行予定です。お楽しみに♪